

国家戦略特区介護ロボット等実証施設公募 選定結果

事業者名	社会福祉法人 孝徳会		選 定		
代表者名	理事長 渡邊 正孝				
施設名	サポートセンター門司				
施設所在地	門司区松原一丁目				
評価結果	評価項目		配点	評価	得点
	基本方針・ 運営方針に 関するもの	法人の経営理念・施設の基本方針	10.0	B	8.0
		利用者への情報提供、情報公開	6.0	B	4.8
		利用者一人ひとりへのサービス提供	6.0	B	4.8
		職員の育成、職場環境	7.0	C	4.2
		利用者の尊厳の保持	7.0	C	4.2
		苦情解決の仕組み	6.0	C	3.6
		事故防止対策及び事故発生時の対応	7.0	B	5.6
		虐待防止対策、身体拘束廃止	6.0	C	3.6
		個人情報保護対策	6.0	B	4.8
		認知症高齢者ケア	6.0	C	3.6
		その他創意工夫や取組みの特徴	7.0	B	5.6
		小 計		74.0	—
	実現性に関 するもの	事業計画の具体性・実現性と継続性	26.0	B	20.8
		小 計		26.0	—
総 合 点		100.0	—	73.6	

評価レベル	乗率	
A	100%	特に優れている(高度な能力を有している)
B	80%	優れている(十分な能力を有している)
C	60%	普通(一応の能力を有している)
D	40%	不十分である
E	0%	不適切である

事業者名	社会福祉法人 孝徳会
選定理由	<p>[総評]</p> <p>今回の提案については、全体的に各評価項目が一般的な説明にとどまらず、当該法人の運営する介護事業の実績を踏まえた具体性のある内容となっており、評価できる。</p> <p>特に、「利用者への情報提供、情報公開」、「事故防止対策及び事故発生時の対応」、「個人情報保護対策」では、特区指定に伴う設備基準の特例や介護ロボット等の実証・実装及び作業分析などを活用していくうえでの視点が記述されており、実証・実装及び作業分析を行う施設として適した施設であり、適切に対応できると判断した。</p> <p>ヒアリングにおいても、各評価項目について、提案内容を踏まえたより具体的かつ明確な回答が得られ、全体的に提案の実現性を十分に有することが確認された。</p> <p>その他、プラスの評価となった主な項目については以下のとおりである。</p> <p>[項目ごとの評価]</p> <p>○「利用者への情報提供、情報公開」では、自己選択・自己決定するための情報提供や、利用者保護の仕組みについての基本的な考え方が示されており、介護ロボット等</p>

	<p>の実証等についても適切な情報提供などが具体的に提案されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「利用者一人ひとりへのサービス提供」では、利用者一人ひとりに応じた個別的なサービス提供の基本的な考え方に基づいて、介護ロボットを開発し、その結果を発信しようとする姿勢など、現実的かつ有効な取組み・対策等が具体的に提案されている。 ○「事故防止対策及び事故発生時の対応」では、日常のヒヤリハット事例の積み重ねを分析し、職員が共有することで事故の予防に努める取組みなど、様々な対策が具体的に提案されている。また、介護ロボット等のリスクを想定したうえで、多職種の職員でリスクの検討を行うことも示されている。 ○「個人情報保護対策」では、個人情報を取り扱う方法を電子データ管理しており、保護対策についてもパスワード管理を導入するなど具体的に提案されている。また、利用者の情報公開の範囲の確認を徹底してから公開することや、介護ロボット等の実証の際の個人情報の取り扱いについても示されている。
付帯条件	<ul style="list-style-type: none"> ○選定された事業所が実地指導等で指摘を受けた場合は、指摘事項について改善を行うこと。また、返還金等が発生した場合は誠実に返還すること。 ○選定された事業所は、実証・実装及び作業分析が開始される前に、利用者・家族には、必要な情報(リスク管理も含む)の提供及び説明、情報公開や適正な表示を行い、理解と協力を得られるように努めること。また、社会福祉法人として、運営状況の透明性を確保すること。 ○介護ロボット等の実証・実装及び作業分析などが開始されてからは、様々な方の出入りが想定されることから、「利用者の尊厳の保持」、「苦情解決の対策」、「事故防止対策及び事故発生時の対応」、「個人情報保護対策」に十分留意し、対策を講ずること。また、実証に際しては、利用者の立場に立ち、自立を阻害することのないように留意すること。 ○介護ロボット等の実証・実装及び作業分析を行う中で、施設で働く職員の負担やストレスの軽減、やる気や満足度を高めるための職場の環境づくりに努めること。また、施設で働く職員の更なる介護知識・技術の質の向上に努めること。 ○介護ロボット等の実証・実装及び作業分析中においては、課題を抽出し、多職種で様々なメリット及びデメリットを分析・検討したうえで、集約した意見をフィードバックし、介護ロボット開発につなげること。 ○本事業の実施にあたっては、関係部署と密に連携を取ること。